

# 旭川医大病院ニュース

## 年頭にあたって

病院長

鮫島夏樹

本院も今年で開院十周年を迎えることになるが、病院全職員の努力のお陰で道北の医療センターとして着実に役目を果して来たことは喜ばしい。昨年暮近く行政監察局によって行われた行政サービスに関する調査でも本院に対する地域の評判の良いことが示されたが、これも日頃患者さん本位の対応を忘れない様に努めて来たことの表われであろう。

医療は痛める人達のためにあるのであり、患者の苦しみを理解出来ぬ者は医者としての資格はないが、これは医療に従事する凡ての人々にもあてはまることである。最近では以前にもまして医学教育の面でこうした昔から分り切ったことが強調されるようになり、医学生の選抜の面でも単に学力

のみならず医師としての徳性を備えた者を選び出すという試みが模索されている。最近の医療技術の発達は目覚ましく、高度の医療が要求される大学病院では医学教育の面でも医療の面でも最新の医療技術、器械の導入が必要であり、こうした技術の開発や習得に医療従事者は多くの時間と労力を費やさなければならなくなってきた。これらの新しい技術は医学的に非常に興味あることであるが、その反面、往々にしてこうした興味の中に患者に対して何が一番大切かという本質的なことが埋没してしまふ懸念がなきにしもあらずである。今日の医学は一般に診断的技術の進歩は目覚ましいものがあるが、治療面での進歩は今一つこれに伴わない現状である。将来の医療はさらに顕著な技術革新と共に進んで行くのであるが、医療技術が高度

題字は吉岡前病院長  
〔編集〕  
旭川医科大学医学部附属  
病院広報誌編集委員会  
委員長  
天羽教授(放射線科)

になればなる程、これを駆使する医療従事者は本質的に患者を理解する資質をもっている者でなければならず、患者の為になる医療行為を正しく認識し評価して行わなければならない、歪んだ医療ということになるであろう。

薬剤部長

稲垣俊一

皆さん、あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。本年は病院開設十周年を迎える年でありまして、病院の創設に携わってまいりました私にとりましては、一つの節目として感慨深いものがあります。

私は昨年四月、部長に就任以来二年目を迎えました。病院ニュースにその時々々の所感をのべてまいりましたが、本年も新たな気持ちでその目標に向かって少しでも進んでいきたいと考えております。

一方、外に目をむけますと、昨年旭川市は通産省よりニューメディアモデル地

看護部長

岡崎フサ子

域として指定されました。本年はその二年目にあたりいよいよその具体的な方向づけ・内容が推し進められるものと思われまふ。医療に携わる私共もそれぞれの分野において、地域社会の発展のために協力していかなければならないでしょう。

とにかく、お互い健康に留意して明るい職場で一年を過ごしたいと思っております。

庶務課長

小川 博

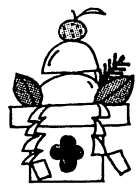
あけましておめでとうございませう。

広く知られていることわざに「一年の計は元旦にあり」というのがあります。これは「月令広義」という一年間の政治的な行事や儀式について解説した本に「四つのはかり」として「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり、一生の計は動にあり、一家の計は身にあり」とあるところから出たもので、ふつうは、それはじめの二つをとって「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」といわれています。

一日(一年)の計画は朝(元旦)のうちにきちんと立てるべきである。そして一生の計画は若いうちにし

### 診療状況

	入院		外来
	延患者数	稼働率	
11月	14,914 <sup>人</sup>	82.9%	13,971 <sup>人</sup>
12月	15,047	80.9	14,045
累計(60.4~12)	139,277	84.4	126,379



つかり立てるべきであるということですが、又朝をすがすがしく迎えることによって一日中気持ちよく仕事も出来るものではないでしょうか、そのためには、自分でそれなりの努力をする必要があると思っております。

私達が仕事をする上で大切なことは、相手(病院では特に患者)に迷惑をかけず相手の立場に立つて相手に喜んでもらえるような行動をすることではないでしょうか、年頭にあたって今年計画なり、目標をたて充実した一年を送りたいものです。

### 最先端医療の紹介

## エトレチナート

昨年十二月日本ロッシュ社から発売されたエトレチナート(チガソン)は、レチノイド(ビタミンAおよびその各種誘導体の総称)の一種で、従来適切な治療方法の無かった遺伝性角化症や難治性の乾燥のみらに極めて高い治療効果のみにる薬剤である。皮膚科領域では、一九七五年以降主として角化症、殊に乾癬に對してヨーロッパを中心に盛んに臨床研究がすすめられてきた。わが国では、一九八〇年に皮膚科領域で本剤が臨床に應用されてから、乾癬と

できることから、長い間待ち望まれてきた薬剤であり、その有用性は国内外で高く評価されてきている。作用機序はまだかならずしも明らかではないが、現時点における可能性として、(一)表皮細胞の分化、ケラチン合成、角質細胞の剝離に關係する異常を調整する作用、(二)好中球遊走抑制作用、(三)免疫増強作用などが報告されている。副作用として、口唇炎、落屑、口内乾燥が高頻度に見られるが、最も問題となるのは、催奇形性であり、しかもその発現率が高いことである。ゆえに妊婦には禁忌であることは勿論のこと女性に投与中および投与中止後二年間、男性も投与中および投与中止後六ヶ月間の避妊が義務づけられている。

本剤の今後の展望として以前から報告のあった抗腫瘍効果への期待が注目されている。有棘細胞癌、基底細胞癌、癌前駆症である老人性角化症、口腔内白斑症、表皮内癌であるボーエン病などに應用され、それぞれの有用例が報告されている。さらに、従来治療方法の無かった日光曝露部に悪性腫瘍を生ずる色素性乾皮症において本剤がこれを予防しうるとする報告もある。

現在レチノイドの開発はさらに続いており、種々の新しいレチノイドが試作されている。今後さらに副作用が少なく、臨床効果の高い剤型の出現が期待されている。

(講師 大熊憲崇)

### 最先端医療の紹介

## 眼運動分析の最近の進歩

最近、神経科学のいろいろな分野にもコンピュータがさかんに導入されるようになり、とくに眼球運動の記録分析ではコンピュータがルーチン検査に應用される段階になっている。

脳波形や心電計と異なるところは眼球運動の速度波形の記録を行うことである。眼球がどれだけ運動(偏位)したかという他に、その偏位している間の速度がどうであるかというところが重要となるからである。コンピュータ処理による、この速度分析および急速眼球運動の定量分析の確立が多様な情報を与えてくれるようになった。

眼球運動には、視標をすばやくとらえる速い動き(saccade)と動く視標を追うていくゆっくりした動き(pursuit)がある。この両眼球運動は、その神経経路に違いがあるため障害部位診断の一助となる。その一端を紹介しよう。

○小脳障害—主にpursuitの障害が著しく、saccadeの速度は正常、ときに替時の延長がみられる。

○脳幹障害—橋の旁正中帯の障害時には著しいsaccadeの障害時があるが、pursuitは保存される。他の橋の障害時にはsaccade、pursuitともに障害される。MLF障害を示す場合、内転が障害された所見を示す。臨床症状が明らかでない症例でもsaccadeの定量分析では内転の際に速度の低下がみられる。

○大脳障害—前頭葉、上頭頂葉、後頭葉の障害時に、患側

末梢性の外転神経麻痺の症例では障害側眼の外転の動きが悪いが、視標の動きとの位相の逆転はない。中枢性の麻痺の場合、まったく電位が消失したかのようになり、他側の電位を拾い、眼球運動の振幅も小さく、位相の逆転もみられる。動眼神経麻痺についても同様である。

このような知見の臨床應用はコンピュータの活用により始めて可能となり、めまい・平衡障害の診断に必須のものとなりつつある。

(助教授 白戸 勝)

眼球運動の記録方法を簡単に説明すると、眼球は角膜と網膜の間に電位差があり、角膜側が(+)に網膜側が(-)になった。この電位を角膜-網膜電位または静止電位と呼ぶ。眼球運動によるこの電位変動を増幅記録したものを眼振図(ENG)と呼ぶ。ENGが

務づけられている。本剤の今後の展望として以前から報告のあった抗腫瘍効果への期待が注目されている。有棘細胞癌、基底細胞癌、癌前駆症である老人性角化症、口腔内白斑症、表皮内癌であるボーエン病などに應用され、それぞれの有用例が報告されている。さらに、従来治療方法の無かった日光曝露部に悪性腫瘍を生ずる色素性乾皮症において本剤がこれを予防しうるとする報告もある。

現在レチノイドの開発はさらに続いており、種々の新しいレチノイドが試作されている。今後さらに副作用が少なく、臨床効果の高い剤型の出現が期待されている。

(講師 大熊憲崇)

### 【薬剤部】

## 新薬紹介(10)



## エトレチナート

(チガソンカプセル)

従来ビタミンAが皮膚・粘膜の正常保持作用を有することは知られていましたが、角化症の治療には大量投与を必要とするため、肝における過剰蓄積をはじめ神経毒性や全身性の高度の副作用の発現などにより、臨床應用には限界がありました。このビタミンAの抗角化作用に着目し、数多くの合成レチノイド(ビタミンAと類似の構造を有する化合物の総称)の中からスクリーニングをしたのが本剤であります。

しかし、本剤にも相当高度の副作用があり、第三相臨床試験までの主な副作用頻度をみると、口唇炎80・6%、落屑65・5%、口内乾燥38・0%、痒痒33・4%、脱毛14・4%であり、総症例七七三例中七一五例(92・5%)に認められ、高頻度に出現してあります。本剤には催奇形性が認められており、医薬品添付文書において警告欄が義務付けられています。したがって、妊娠する可能性のある婦人で他に代わるべき治療法がない重症な患者にやむを得ず投与するときは本剤の投与中及び投与中止後少なくとも二年間は避妊させることが必要であり、再発のため治療を再開する場合も同様であります。さらに、モルモットを用いた動物実験で精子形成能に異常を起すことが報告されていますので、男性に投与する場合は投与中及び投与中止後少なくとも六ヶ月間は避妊させる必要があります。その他の注意として、まれに肝障害を起すことがありますので、肝機能検査による追跡を行うべきであり、肝障害が疑われるときは直ちに投与を中止すること、ラットを用いた動物実験で骨折等の骨毒性が認められていますので、骨の成長が終了していない患者には観察を十分に行いながら慎重に投与する必要があります。又、授乳中への投与については動物実験で乳汁中へ移行することが報告されていますので、投与を避けるか、授乳を避けさせることが

望まれます。  
 使用に際しては催奇形性  
 及び予想される副作用につ  
 いて患者又はそれに代わり  
 得る適切な者によく説明し  
 理解させた後、同意書を得  
 てから使用することが義務  
 付けられています。

本剤は10mg、25mgカプセルの二規格が採用になり、  
 効能・効果は諸治療が無効  
 かつ重症な次の疾患で、皮  
 膚科領域では乾癬群・魚鱗  
 癬群・掌蹠角化症・ダニエ  
 ー病など、口腔外科領域で  
 は口腔白板症・口腔乳頭腫  
 ・口腔扁平苔癬が適応とな  
 っております。用法・用量  
 は、通常成人では寛解導入  
 量として一日40〜50mgを二  
 三回に分けて二〜四週間  
 経口投与し、一日最高用量  
 は75mgまでとします。その  
 後、症状に応じて寛解維持  
 量として一日10〜30mgを一  
 三回に分けて経口投与し  
 ます。又、幼・小児では寛  
 解導入量として一日1.0mg/kg  
 を一〜三回に分けて二〜四  
 週間投与し、その後、症状  
 に応じて寛解維持量として一  
 日0.6〜0.8mg/kgを一〜三  
 回に分けて経口投与します。  
 なお、使用に際し医薬品  
 添付文書を十分御理解の上、  
 処方されるよう願います。  
 (薬品情報室長 竹本功)



# 人事異動

## 〈採用〉

第二内科助手 林 敏  
 小児科助手 歸山雅人  
 産科婦人科助手 相馬 彰  
 麻酔学講座助手 丹羽一善  
 峯田昌之

## 〈辞職〉

精神科神経科助手 宗岡幸広 (60・12・1付)  
 外科学第一講座助手 橋 秀光 (60・12・16付)  
 麻酔学講座助手 中尾ますみ (61・1・1付)

第二内科助手 衛藤雅昭  
 麻酔学講座助手 高田 稔  
 高畑 治 (60・11・30付)

精神科神経科助手 中川孝範 (60・12・15付)

内科学第三講座助手 高橋 篤

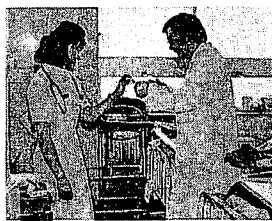
外科学第一講座助手 堀尾昌司  
 麻酔科助手 藤井宏一 (60・12・31付)

## 〈配置換〉

麻酔学講座助手→麻酔科助手 西岡 洋 (61・1・1付)

# 5階東NSの紹介

昭和五十二年九月、麻酔科は帯状疱疹、第一外科はヒルシユスブルグ氏病の患者入院をもって五階東ナーステーションが開設しました。十二才以下の小児を対象とする小児外科とペインクリニック、透析室、成人ICUを担当する麻酔科との混合病棟の看護体制として検討の結果、チームナースングに落着き現在に至っています。小児外科に於ては錢函の小児病院、旭川市立病院ICU



# 材料部の紹介

材料部は附属病院全体への滅菌医療器械や衛生材料等の供給・洗浄・滅菌と保管の病院運営の重要な部分を担っている。八竹部長・久保副部長のもと、機械操作員二名・看護婦三名・看護助手二名・技術補助員一名・技能補助員五名の計十三名が従事している。材料部の一日は八時半のミーティングに始まり、すぐに滅菌・貸出し・返納物品受領の各持ち場に分かれる。間もなく、二台の超音波洗浄装置の、何処かの大きな音が響きわたる。

を見学させていただきスタート前の参考としました。麻酔科に於ては透析室が五十六年まで、成人ICUは五十七年まで稼働してまいりました。成人ICUは十二床、小児外科三十三床(三床ICU)となっております。外科系十科と内科の十一科が入院します。混合科のため各科の医師が多数出入りし、全ての業務リダーの力量にかかるといえます。夜勤は三人制で、機能的業務が早出と遅出に分担さ

器械の流れは、返納物の数の確認と分解・洗浄と乾燥・故障や錆の点検と進む。次いで各種のセッティングと包装・滅菌・保管と貸し出しとなる。この他に、滅菌済みで入るデイスボ製品や、材料部内で分包し滅菌する衛生材料がある。さらに、洗濯後に穴やほころびを点検した後に、種々のセットに組み込まれるリネン類など、多種多様な膨大な量を扱っている。これ等は、数の一つ、わずかな汚れや故障が問題となり、緊張の続く仕事となっている。また、手術部で使う器械の管理も材料部の仕事となっていて、残り番が、十八時までに戻った器械の洗浄と収

れています。土曜日以外は毎日総回診、手術日、入院、退院日に当り、又臨時手術、即時入院にも備えています。小児外科の対象が先天異常、腫瘍、不慮の事故が多いため、緊急性と熟練した看護が要求される一方、麻酔科はペインクリニックの患者が大半ですので、看護者としての援助のあり方が考えさせられます。当病棟では入院した小児の看護はできるだけ看護者の手でという事で付添いはケースにより柔軟性を持つ



て対処する様にしてみました。又、小児外科に於ける入院期間は短期間ではあります。五階東内でのプレイルームの設置が可能となるならば、さらに豊かに入院生活につながるものと願っている次第です。

最近特に看護の質が多くなってきた。患者及び看護者が共に満足できる看護を提議できる場として、一層スタッフと共に研鑽し私達に与えられた責任の一端を果したいと誓っています。(看護婦長 山田久美子)

納を行って一日が終る。外部の人とは窓口だけの接触になっており、外から見えない作業が終わると奥の方での仕事に移るため、表面は静かな所と映るがなかなか大変な所である。滅菌は高圧蒸気・EOガスと乾熱の三種二台の機械を、機械操作員二名が交代で運転している。輻射熱の中での滅菌や、定期的に行っている機械の自主点検と滅菌性能検査など万全を期している。開院以来九年間に、病棟が増えるに伴い扱ひ量も増したが、徐々にだつたためそれ程の混乱も無く過ごして来た。しかし、ここ二、三年の稼働率の上昇に伴い、

手術器械の使用量や衛生材料・デイスボ製品の消費が格段に増えている。この中で老朽化した滅菌器等を、年に二台の割合で更新して来ているが、明日にもこの機械が止つたらどうしようかと心配しているものもある。医学の進歩に伴い手術器械も増え、収納場所の不足も問題となっている。これ等種々の問題を、限られた人と場所ですぐに合理化することが、我々材料部に与えられた課題と考えている。そして、利用者の皆さんには、約束ごとを理解し、材料部を上手に活用して欲しいと願っている。(看護婦長 阿部幸子)

# 腫瘍の集検

近年、わが国における腫瘍死亡率は漸増しており、一九八〇年の腫瘍死亡率は一九六〇年に比べて約三倍となっており。しかも日本腫瘍学会から提出された一九八四年の全国腫瘍登録調査報告をみると、登録された一〇六七例のうち切除できたものは二九五例(二八%)であり、腫瘍の切除率は依然として低率に留まっております。

一方では、画像診断法、腫管造影法、血管造影法などが開発され、これらを駆使することによって直径2cm以下の小腫瘍の診断も可能となり、

能であります。これに加えて外科的治療や術後の管理など治療の面においても著しい進歩がみられます。

このような診断や治療の向上にもかかわらず腫瘍切除率の低迷している主な理由としては、腫瘍の多くは腹痛や黄疸などの症状の出現した時点で既に切除不能であることがあげられます。そこで切除率を向上させるためには、切除可能な腫瘍の潜在する集団のなかからこれを検出するといった集検作戦に期待せざるをえません。最近、腫瘍患者の血中に高率に増加するいくつかの生化学的マーカーが発見され、また解像力のす

ぐれた超音波診断装置が開発されたので、大きな集団のなかから要検者をスクリーニングすることが或る程度可能となりました。前口上が長くなりましたが、腫瘍発生の比較的若い高齢者の多いモデル地区の住民について、まずは血中の糖鎖抗原CA19-9とエラストラーゼを測定し、その陽性者について腹部超音波診断を施行し(二次スクリーニング)、さらに必要に応じて腫管造影などの精検法を施行するといった腫瘍集検を試みてみました。最終的には、四〇歳以上のおよそ一〇〇〇名の受検者のなかから二名が腫瘍と診断されました。しかし、高齢のた

めあるいは既に進行癌であるために外科的治療は断念せざるを得ず、切除可能な腫瘍の検出といった所期の目的は達成されなかった。腫瘍の集検には、対象とする集団の大きさと構成、モデル地区における行政の援助、集検スタッフおよび受検者の負担などによって多くの問題点が残されており解決されたとしても、腫瘍集検の真価は同一集団について反復施行することによって初めて明らかになるものと考えている次第です。

(第一内科 建部高明)



## 臨床検査を

### 取り巻く現況

年につぐ低受診率(総人口に換算すると約百数十万人減)である。しかも保険

の二本立てにしようとする動きも領けなくもない程である。

現在、民間検査センターは全国で八百余施設にのぼり過当競争によるダンピングにより、一部の検査センターの検査データの精度管理の種々な問題を提起している。

厚生省はこの問題を重視し民間検査センターの指導監督を強化するため、①精度管理上必要な諸基準の作成、②衛生検査評価協会の設立、③都道府県の監視体制の強化、の三つの柱による質的向上を図るため関係機関の協力と実現(日本臨床検査技師会も約二億円の

国民医療費に占める検査費用は年々増加し一兆八千億円(昭和五十八年、医療費の八%)に至っている。マスクミの言葉を借りると「検査づけ」なのだそうである。病院検査室は黒字採算部門の一つ(勿論、診療科に付随するが)であるが、厚生省の医療費抑制策である老人保健法、保険本人の一部負担保健法などの影響で昭和五十九年は国民一五・六人、五十八年の一三・五人に一人が受診し、四十七

診療報酬の改正と相まって病院の財政悪化に伴い、中規模の病院でさえ、特に検体検査、さらに生体検査のスクリーニング検査を縮小又は廃止し民間検査センターに委託する施設が多くなっている。設備投資、労務、技術管理を必要とせず、一般的スクリーニング検査項目は約六十五%の縮取りができることから益々外注の傾向が顕著である。従来、診断・技術料が含まれている検査点数を院内と外注検

査の二本立てにしようとする動きも領けなくもない程である。

病棟検査室で診療科から要望される全ての検査を処理することは膨大な設備と人員を必要とし、少数検査や特殊検査の試薬・精度管理に費やす経済的な面から信頼できる民間検査センターとの共存共栄論は正当であると思うが、私たち病院検査室に勤務する臨床検査技師も病院側が何を求め、それにどう対処していくのかを一人一人の知恵と決断を運まなきが持たなければならぬ時期である。(検査部 信岡 学)

我が家は既に錦町にある。道路を隔てた北門町は旭川に相応しい名前であるが、新興住宅地の代表名の緑が丘昭利町と同様にまだ周囲には空地、島が多く、眺望の良いだけが取柄というところである。

十月、突如小宅の隣一〇〇坪の空地に四階立てのアパートを建築するとの通知が郵便箱に入った。二階立ての木造アパートぐらいならともかく、食堂の窓から二米のところに高さ十米の壁が立つとなると一言あるべからずと、隣近所の人達を叫合して建築主に掛け合ったが、木で鼻を括った様な返事しか返らないので、市長に掛け合った。さすが市の対応は早く、秘書課長が調停に来られたが、このアパートは昭和二十五年に出来た建築基準法からいうと、先住者の権利を守るというところで当事者の間で話し合いを進め、解決すれば許可が出ることになった。さて第一回の話し合いは、既に地鎮祭も済ませた後の工事小屋で当方五人、敵数人で始ったが、双方ジャブ、ストレットの応酬で物別れとなり、第二回は住宅地に鉄筋のアパートなど作るには何事か、先住者への断りもなしに工事申請をするとはけしからんと喧々囂々

## アパート「しょうこちゃんの家」奮闘記

の議論の末で物別れとなつて十日以上もたった。今年例年になく雪が深く、まだ話し合いの最中に銀世界となり、土も凍り、工事事も難決するかなと気の毒に思いつつも先住者の権利を守るのはこの時とばかり引き伸ばしにかかり、先方からの催促も無視して放置してあったところで第三回目の話し合いがあり、町内会一同の建築絶対反対の決議文を出して物別れとなった。しかし敵も頑強で、裁判のことまで口にしたが、近頃の裁判は住民側に有利なことも判っているのだから条件をつけられるのはこの時とばかり、建物の構造と位置に文句をつけた。遂に建物を出るだけ道路側にずらし、小宅側の四階部分の半分を削るということで、双方不満足ながら折り合いをつけた。

(編集委員長 天羽一夫)